

令和7年度第5回地方独立行政法人機構評価委員会 議事要旨

日 時 令和8年1月27日(火) 16時00分から16時55分

場 所 加古川中央市民病院 3階 会議室1

出席者 委 員 5名  
加古川市民病院機構 12名  
事務局 6名

傍聴者 なし

会議次第 1. 開会  
2. 諮問書の提出  
3. 議題  
    (1) 第4期中期計画(案)について  
    (2) その他  
4. 閉会

1. 開会	開会の宣言 ＜委員長あいさつ＞
2. 諮問書の提出	事務局から委員長へ諮問書を提出
3. 議題	<p data-bbox="405 349 890 383">(1) 第4期中期計画(案)について</p> <p data-bbox="389 394 1434 584">中期計画の認可手続きについて、参考資料1に基づき、事務局より説明を行った。また、資料1、2及び参考資料3に基づき、加古川市民病院機構より説明を行った。その後、評価委員会は審議を行い、第4期中期計画(案)について、「認可が適当である」と決定した。また、市長への答申書については委員長に一任することを確認した。</p> <p data-bbox="405 640 549 674">(主な意見)</p> <ul data-bbox="389 685 1434 1536" style="list-style-type: none"> <li>・救急医療に関し、#7119の活用が期待される一方で、高齢化により重症化・重篤化する患者の受入れは地域の輪番病院との役割分担・連携を踏まえた目標値であると理解した。</li> <li>・無痛分娩はスタンダードになりつつあり、更なる需要が今後見込まれるなか、「無痛分娩件数」で高い目標を掲げていることを心強く感じる。</li> <li>・無痛分娩には麻酔科医の確保が課題であり、このように規模が大きい病院で積極的に行われていることは評価すべきところである。</li> <li>・「安全で信頼される医療の提供」の目標指標「患者満足度」は入院・外来ともに現状は高い評価を得ており、今後も継続してもらいたい。</li> <li>・「働きやすく、やりがいのある職場づくり」の目標指標「職員満足度」の目標値は維持だが、職員がやりがいを持って職務に当たれることが患者満足度につながると考えるため、職種・年齢の違いはあるが、モチベーションが高められるよう努めてもらいたい。</li> <li>・コンプライアンスに関する活動指標を増やしている点、ハラスメントに対する対策を講じている点、サイバー攻撃への対策や非常時の患者情報・診療情報のバックアップ体制への対策など世相を反映していると感じた。</li> <li>・収益は難しい面もあると思うが、引き続き頑張っていただきたい。</li> <li>・令和6年度は黒字決算だが、第4期中期計画(案)では若干の赤字予想となっている。診療報酬は改定が予定されており、収入増が見込まれるが、人件費や機器の価格上昇が予想されるため経費削減が必要である。一方で、設備投資も怠らず、バランスの良い運営を期待する。</li> </ul> <p data-bbox="405 1592 608 1626">(主な質疑応答)</p> <p data-bbox="405 1637 491 1671">(委員)</p> <p data-bbox="389 1682 1434 1783">現状、市内で分娩可能な産婦人科医院が2ヶ所となる中、ハイリスクな症例を中心に対応する加古川中央市民病院にとって通常分娩の増加が負担とならないか危惧する。</p> <p data-bbox="405 1794 491 1827">(機構)</p> <p data-bbox="389 1839 1434 1984">ハイリスクな症例は継続して対応したいと考えているが、分娩件数は2市2町の出産年齢人口が減少傾向であることから、5年後はピークより減少することが見込まれるため、目標値を減らしている。ただ、病院としてはできるだけ受け入れる体制は継続していきたい。</p> <p data-bbox="405 2040 491 2074">(委員)</p> <p data-bbox="421 2085 903 2119">逆紹介率が下がっているのはなぜか。</p>

(機構)

逆紹介の目標値が低くなっているのは、がん治療患者などは化学療法を通院で継続して行うケースがあり、すぐに地元の医院に逆紹介できないケースが増えてきているため前中期計画より目標値を下げている。

(委員)

8月に労働基準監督署から労働環境の是正の要請があった件についてプレスリリースされていたが、原因や対策について教えてもらいたい。

(機構)

労働基準監督署からの是正勧告に対して、労働組合と十分に協議し、令和7年10月から12月の間、明確に区分した時間外勤務、休憩時間、自己研鑽の実績を監督署に報告した。監督署への報告は年内で終了となったが、引き続き、医療の品質を維持しながら、休憩時間の確保、職員のモチベーション維持に向けて、労働組合と協力し、労務管理を進めていく。

(委員)

「高度・専門医療」の目標指標で「冠動脈インターベンション（PCI）件数」や「末梢血管インターベンション（PTA）件数」の実績・目標ともに減少しているがなにか最近の傾向として理由があるか。

(機構)

第3期期間中においても、心疾患に対する「冠動脈インターベンション（PCI）件数」は全国的に見ても減少傾向で、薬剤の開発や予防が進んだからであるが、当院が地域の中核病院であることを加味した目標値を設定している。一方、不整脈は増加傾向にあり「アブレーション件数」や「デバイス治療件数」といった静脈治療の目標値は上げている。

(委員)

「市施策への協力及び地域社会への貢献」はいつも評価が「3」である。「人間ドッグ受診者数（人）」を目標指標に掲げ、前回より目標値を上げているが、他に具体的な構想はないか。

(機構)

病院で行っている市民公開講座をはじめ、イベントへの協力を続けていくが、加古川市とより具体的な目標を立てられるように協議をしたい。

(委員)

第4期中期計画の目玉施策はどれになるか。

(機構)

高度専門医療に加え、新たな医療を地域住民に安全に提供すること、病院職員が満足して働ける取り組みをすること、医療DXを進めることだと考えている。特に、医療DXは以前から力を入れており、令和7年度は電子カルテの更新を行い、生成AIのプロジェクトチームを立ち上げ、現場でも段階的に生成AIを使用し始めている。看護師や医師事務作業補助にも医療DXを導入することで人材の緩和策や業務効率化が可能であるという検証結果が出ており、人材確保が困難な時代が目の前に迫っているからこそ大事な取り組みだと考えている。

(委員)

転職サイトなどの普及により医療従事者の流動性が高まっており、離職防止

	は重要である。
4. 閉会	<副委員長あいさつ>